

自分たちのまちは 自分たちで守る。



河川は地域の共有財産です。河川整備を進めるためには流域住民のみなさんの意見や要望が不可欠です。国や自治体、住民が力を合わせて、「みんなで話し合い」「みんなで考える」、そんな河川整備を目指しています。

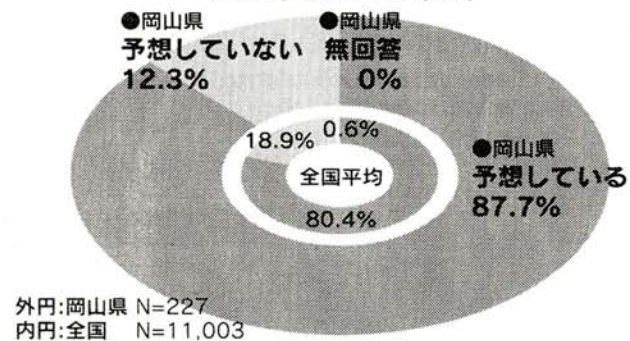
“晴れの国”の安全神話が消えた…？

岡山県では、特に2004年の台風による大規模な高潮や土砂災害が相次ぎ、「晴れの国おかやま」だから水害はないという安心感がくつがえりました。国土交通省岡山河川事務所では、①防災マップ作りなど地元自主防災会の活動を支援、②河川の洪水状況を確認していただくために橋脚に危険水位表示をするなど、地域の防災力向上に努め、③河川の水位状況などをパソコン (<http://www.river.go.jp/>) や携帯電話 (<http://i.river.go.jp/>) で提供しています。浸水想定区域を含む自治体が作成する「ハザードマップ」などで、危険箇所や避難場所を確認し、万一の災害に備えておきましょう。

岡山県民の防災意識をアンケート調査しました。新聞を通して募集していた「川や水の災害について」のアンケート結果

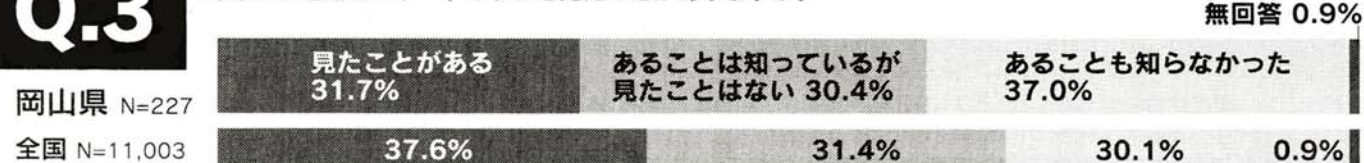
Q.1

近年、異常ともいえる規模や頻度の洪水・高潮・土砂災害が全国各地で発生しています。あなたの地域でも、今後このような水害が起これると予想していますか。



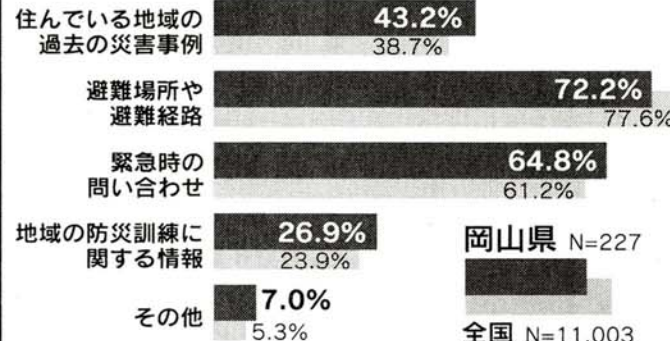
Q.3

あなたは地域のハザードマップを見たことがありますか。



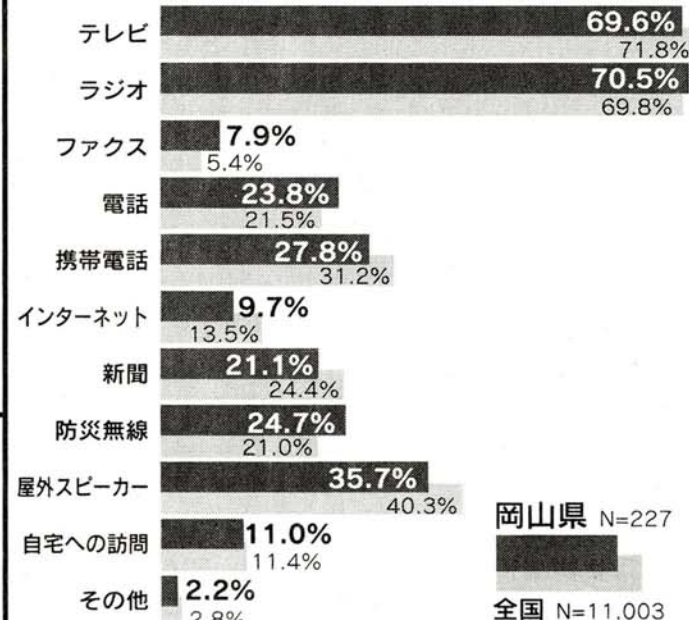
Q.2

日頃から災害に備えるために知っておきたい情報は何か。(複数回答可能)



Q.4

水害が起こった時はどのような方法で情報を入手したいですか。(複数回答可能)



Q.5

防災・減災の観点から日頃あなたが思っていることや、防災・減災に関する地域の取り組みを進めていく上での課題など、どのようなことでも構いませんのでお聞かせください。

- インターネットで災害の情報を流してほしい。(女性 10代以下)
- ハザードマップの問い合わせ先が良くわからない。(女性 40代)
- 危ない地域は事前に知らせてほしい。(男性 70代以上)
- 現在、集中豪雨で色々なニュースを聞いて、この広告とともに、今までより関心を持っているところです。普段から避難場所とか考えておきたいと思います。(男性 10代以下)
- 最近、私たちの街でも少しずつではありますが、テレビ、新聞、広告、ラジオなどで防災対策についての情報が広まってきていると思います。もっと広めてほしい。(女性 20代)
- 車などで放送しながら回っていますが、風の音や雨の音、そしてそんな時は戸も閉めているので聞きとれません。ぜひ、全戸へ防災無線の設備をお願いしたいです。(女性 50代)
- 一人住まいの老人等が増えているので、平素から状況を知り、万一の場合に仕組み訓練が必要と思う。お互いに助け合って生きていくことの大切さを小さい時から教えることが必要でしょう。(男性 60代)
- 天災はいつやってくるかわからないので、こまめに情報をキャッチすることが大切だと思う。(女性 30代)